

## (2) アンナプルナ内院、アンナプルナベースキャンプ往復（5日間）

10月25日

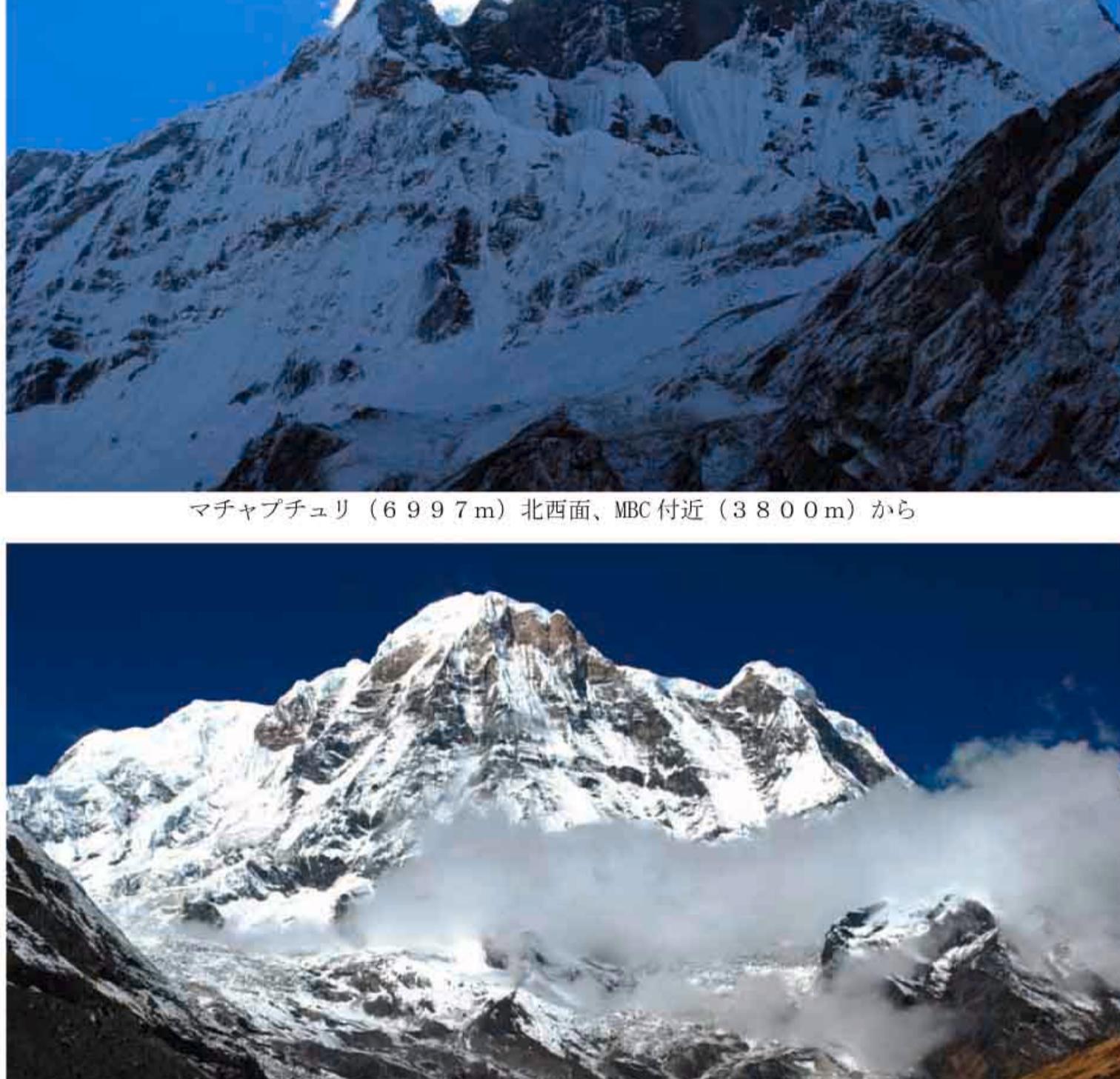
曇り。早朝ポカラからシャウリバザール（1200m）までタクシーで約2時間。それ違う様々な国からの老若男女トレッカーとナマステと挨拶を交わしながら、チョムロン・コーラの橋まで降りてからシヌワ（2200m）まで。

10月26日、

未明、ヘッドランプをつけて出発。モディ・コーラ右岸のルートをひたすら登り、デウラリ（3200m）で早めにロッジの部屋を確保する。

10月27日、

晴のち雪。ヘッドランプをつけて早発ち。マチャブチュリ・ベースキャンプを通過してアンナプルナ・ベースキャンプ（4130m）に昼前に着き、相部屋条件でロッジの部屋を確保。遅れてやってきた同宿者はポーランド人の母娘ペアと、若いフランス人単独行動の女性。他の選択肢はないと我慢したようだが、爺さんなら安全と感じて平気で眠れたのだろうか。夜半降雪。



マチャブチュリ（6997m）北西面、MBC付近（3800m）から



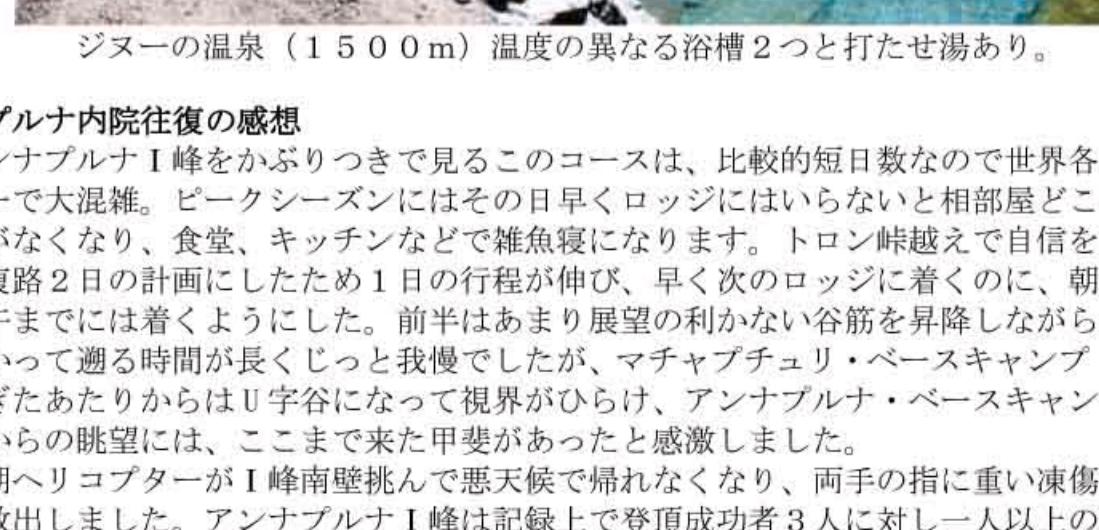
アンナプルナ南峰（7219m）東面、ABC手前標高約3900mから



アンナプルナI峰（8091m）南東面、ABC付近（4200m）から

10月29日、

晴れ、ジヌー（1700m）からモディ・コーラの河床まで約十五分下って温泉で汗を流す。シャウリバザールからタクシーで10月29日夕刻ポカラ帰着。



ジヌーの温泉（1500m）温度の異なる浴槽2つと打たせ湯あり。

### アンナプルナ内院往復の感想

アンナプルナI峰をかぶりつきで見るこのコースは、比較的短日数なので世界各国からのトレッカーで大混雑。ピークシーズンにはその日早くロッジにはいらないと相部屋どころか、泊まる部屋がなくなり、食堂、キッチンなどで雑魚寝になります。トロン峰越えで自信をもち、往路3日、復路2日の計画にしたため1日の行程が伸び、早く次のロッジに着くのに、朝食抜きの早発で正午までには着くようにした。前半はあまり展望の利かない谷筋を昇降しながらひたすら上流に向かって遡る時間が長くじっと我慢でしたが、マチャブチュリ・ベースキャンプ（3700m）を過ぎたあたりからはU字谷になって視界がひらけ、アンナプルナ・ベースキャンプ（4200m）からの眺望には、ここまで来た甲斐があったと感激しました。

早朝ヘリコプターがI峰南壁挑んで悪天候で帰れなくなり、両手の指に重い凍傷を負った登山者を救出しました。アンナプルナI峰は記録上で登頂成功者3人に對し一人以上の死者がいると言われる最もハイリスクな8000m峰。

復路ジヌーからモディ・コーラの河床まで15分ほど下ったところ（1500m）にある気持ちの良い掛け流しの温泉に浸りました。板状の石で作った2つの浴槽があり、湯守がいて整備し湯温を調節している。

内院のABC往復のコースは高所にまだ体が慣れていない時、日数の制約がないときは、もっとゆっくりした日程で登るべきです。ABCで天気が悪かったら何のために行ったかわからないのでABCに連泊できるように日数にゆとりを持って行くのがいいでしょう。